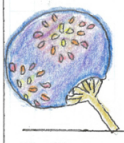
香川

2-A

若山 泰千

香川県を知る



◎人口　約九〇万人
◎面積　一八七六㎢
◎県庁所在地　高松市

香川県は日本の四国地方に位置する県で最も面積が狭い。

県庁所在地である高松市は、四国の玄関口であり、四国を統轄する国の出先機関のほとんどや、多くの全国的規模の企業の四国支社や支店が集中する支店経済都市である。

地部に広がる瀬戸内海には、小豆島など多くの島々が点在している。本州の岡山とは岡々を伝う形で架けられた瀬戸大橋により、道路・鉄路で結ばれている。

▼気候▲

瀬戸内海式気候で晴天の日が多い。また、中国山地と四国山地に挟まれているため雨量が少ないのが欠点である。かんばつに備え一万四千を超えるため池が存在している。

▼農業▲

米を始めとしてレタスやみかんなどの栽培が多く、オリーブ、讃岐三島など気候特有の農産物も多く存在する。

▼水産業▲

イワシやシラス、タコやイカナゴなどの海面漁業のほかハマチ（養殖）やノリ、マダイなどの養殖業も盛んである。

▼瀬戸内工業地域▲

坂出市にあり、造船、石油などの企業が立地している。

香川の発足

徳川時代の讃岐国には高松藩、丸亀藩、多度津藩の三藩と、徳川幕府の直轄地である天領、津山藩の飛地が分立していた。

一八七一年の廃藩置県により、高松藩は高松県、丸亀藩は丸亀県、多度津藩と天領は倉敷県、津山藩の飛地はそのまま津山県となる。

その直後に、倉敷県の管轄地が丸亀県へと移された後に、高松県と丸亀県が合併され香川県が設置され、翌年に小豆島西部を編入し、現在の香川県となる。

しかし、一八七三年には名東県（後の徳島県）に編入。二年後に香川県として分離されたが、翌年、今度は愛媛県に編入された。編入の度に、地理的要因や住民嘆願などで食い違いが発生し、香川県単独の県の設置を望む声が再び高まり、一二年後の一八八八年に香川県が復活し、現在に至る。

うどん文化

讃岐うどんの始まりは弘法大師によるものとされています。弘法大師は平安時代の僧侶で、別名は空海。讃岐群（現在の香川県）と言われています。讃岐うどんの起源は彼が唐に渡ったことがきっかけです。弘法大師はそこでうどんの調理法を知り、帰国後に香川でそれを伝えました。

なぜ香川県でうどん文化が発展したのか。

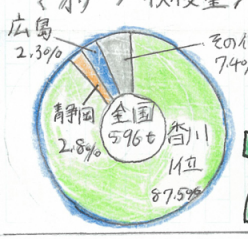
その理由は、香川県の土地柄が関係しています。当時のうどん作りに必要な材料は小麦・塩・醤油・いりこ煮干しでした。

それらは香川県で生産されていて、他県から調達する手間を省けたのです。

▼ユニークな習慣▲

「初風呂うどん食え」の風習が今も残るうどん県。これは、家を新築した際の新しい風呂には年長者から順に入り、湯船でうどんを食べる習わしです。「中風せずに太く長く生きられるように」の願いが込められているとの一説も。節目の日にうどんを食べるうどん県ならではの独特なスタイルです。

県章



アートの島

▼アート県かがわ▲

島々のアートや世界的に著名な建築家による名建築など多彩な芸術に出会える。

▼直島▲

現代アートの聖地として知られている。古い街並みと現代アートが調和した島の魅力がある。

○直島パビリオン
○直島新美術館

▼島々のアート▲

瀬戸内海に浮かぶ島々は、国内外のアーティストによる作品が点在する。

○豊島美術館
○歩く方舟

▼美術館▲

幅広いコレクションとユニークな展示で訪れる人々を魅了します。

○香川県立東山魁夷せとうち美術館
○流政之美術館

▼建築・建造物▲

丹下健三の作品や、国の重要文化財に指定されている建造物が多数ある。

○香川県庁舟東館

金刀比羅宮

金刀比羅宮は、香川県琴平町の象頭山に鎮座する神社です。

御本宮の御祭神は、大物主神と崇徳天皇です。古来から農業・漁業・医薬・海上守護の神として信仰されています。境内では、神様に奉仕する神職・巫女が一年を通して神事などを行っています。

御本宮の金幣、「幸福の黄色いお守り」、例大祭の「お頭人様」、書院の円山応挙の障壁画、蹴鞠、「こんぴら狗」などが有名です。

編集後記

知ってほしい

それは、高松空港にある「うどんだしの出る蛇口」です。いりこをベースにした味わいらしい。空港行ったら絶対のみたい。

私が香川帰省に行くときはうどん作り体験をしたいです。一つの旅の思い出としてたくさん楽しみたいです。